

一言にお墓といいますが、それぞれさまざまな違いがあるでしょう。

例えば先祖代々その土地に住んで、何代にもわたるご先祖様が眠るお墓もあるでしょうし、仕事などの都合から、ご先祖様とは離れた土地で墓地を求めて建^{こんりゅう}立された新しいお墓もあるでしょう。

昔からのお墓は、代々継^{けいしゅう}承されることにより、何代にもわたって守られてきたその家の歴史を感じることができます。

また、新しく建てられたお墓も、昔ながらの形で建てられることが多いですが、最近ではさまざまな形のお墓が見られるようになりました。

今、自由な形でお墓を建てる事ができる霊園にお参りしますと、さまざまなデザインのお墓を見かけます。石で作られたサッカーボールが置いてあったり、スキーの板をかたどった石碑があったり、囲碁の碁盤が石で作られていたりします。

これらのお墓は、ご先祖様を祀るというイメージではなく、亡くなった方の思い出^{しの}を偲ぶ形になっているようです。

また、石碑に刻まれる文字もさまざまです。スペースの都合もあるのですが、「何々家先祖代々」ではなく、「やすらぎ」や「慈悲」など、それぞれが任意^{にんい}に選ばれた言葉が刻んであります。

さらに、各家のお墓だけではなく、跡継ぎ^{あとつぎ}を必要としないお墓である永代^{えいたい}供養墓や、山林を保護する目的とお墓を融^{ゆうごう}合させた形の樹木^{じゅもくそう}葬墓地と呼ばれるものもあります。

お墓は、家族構成^{けいしゅうせい}や継承^{けいしゅう}者の有無など、時代によって変化してゆくものなのかも知れません。亡き方をご供養する大切な場所ですから、新たにお墓を建^{こんりゅう}立されるときは、家族でよく話し合い、またお寺の住職にもよく相談されて指導をいただくことも必要なことでもあります。

お墓の形は時代によって変わることがあっても、変わらぬものが供養の心です。

お墓参りをし、お水やお花を供え、お線香を供えて静かに手を合わせる時、亡くなった方とのいのちのつながりを感じることができます。生前には尽くせなかった親孝行^わを詫^わびる気持ちも、伝えられなかった感謝の気持ちも、今の悩みも亡き方・ご先祖様はきっと受け止めてくれるでしょう。

お墓は、ご先祖様や亡き方をご供養する重要な場所であり、今ある私たちのいのちを見つめ、いのちに感謝をする大切な場所でもあるのです。